

公益財団法人国際文化フォーラム

# 2019 年度 事業報告及び附属明細書



2019年度に計画した事業の遂行にあたっては、日韓関係、大型台風の襲来など様々な事象に見舞われましたが、次ページ以降の個別報告にもある通りおおむね順調に実施することができました。

しかし、年度終盤の2020年1月から3月にかけて予定していた事業については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、運営方法の変更、計画を中止するなどの事態が生じました。この感染拡大については、2020年度の事業運営についても大きな影響を及ぼしています。

2020年度は東京オリンピック開催年ということで、本年度当初より東京都から、オリンピック開催に伴う道路・鉄道等の公共交通機関の混雑緩和のためにリモートワークが推奨されており、TJFとしては11月から、定時出退勤制からコアタイム制のフレックスタイムを導入し、リモートワーク実現のための職場環境の改善に努めました。

環境構築の一層の充実のために、東京都の「令和元年度(平成31年度)テレワーク活用・働く女性応援助成金」を獲得することを目指し、総務省ならびに東京都の財団から派遣されるテレワークマネージャー派遣事業(数回の無料コンサルテーション)を活用することで、新年度の具体的な導入に向けて準備を進めておりましたところ、奇しくも新型コロナウイルス感染拡大という事態に遭遇し、2月中旬以降には希望者から順次在宅勤務を実践するなど、対策することになりました。

なお、リモートワーク実現のための環境構築費用、機器の購入費用については、前掲の助成金事業への申請から、東京都が新型コロナウイルス感染症等の拡大防止および緊急時における企業の事業継続対策として、テレワークを導入する都内の中堅・中小企業等に対して、その導入に必要な機器やソフトウェア等

の経費を助成する「事業継続緊急対策(テレワーク)助成金」(2020年3月6日開始)への申請に切り替え、急ぎ準備を進め、2020年4月末時点で助成申請が採択されました。

#### ■ 好朋友日本文化体験基地づくり(イー2 ①の事業)

2015年度より好朋友日本文化体験の場づくりのプロジェクトを開始し、中国各地の5校が体験の場というハードを提供、TJFは日本文化を体験に活用する物の寄贈、活動に協力してくれる現地日本人とのネットワーク、活動を企画するために必要な理論や実践の共有をめざした教師研修を実施してきました。

2019年度は、他校の実践例や教師研修で講師が提案する活動のアイデアを共有するためのアイデア集の制作、学校の枠を超えて情報共有ができるようなwechat(中国のSNS)のグループ作成などを実施し、TJFとしては、各校が体験の場の運営を進められるような環境が整ったと判断し、2019年度をもって同プロジェクトは終了しました。

#### ■ 多言語・多文化パフォーマンス合宿(ウー3の事業)

2017年度より2回の開催を経て3月の春休み期間中に第3回目を実施すべく準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染拡大を受けて事業の中止を決定しました。本事業は2020年度も継続して実施することとしており、今後の感染拡大状況等を見極めて、事業実施に向けて準備を進めることにしました。

## 2019 年度に実施した事業の一覧

### ア. 国内外の児童・青少年並びに教育関係者向けの研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウム事業

- 1 「外国語学習のめやす」活用の促進
- 2 社会変化に対応し学びをデザインする研修の実施
- 3 「学校のソトでうでだめし」プロジェクトの実施
- 4 「りんごをかじろう」講座の実施
- 5 学生によるインタビュープロジェクト「ときめき取材記」の実施
- 6 ネットワークの構築と情報収集

### イ. ガイドライン・教材・視聴覚資料・授業案の開発や提供事業

- 1 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにっぽん」の運営
- 2 中国への図書・教材・資料の提供
- 3 ネットワークの構築と情報収集

### ウ. 互いのことばを学ぶ国内外の児童及び青少年並びに教育関係者の交流事業

- 1 日韓・中高生の交流プログラム「ソウルでダンス・ダンス・ダンス」の実施
- 2 日韓の校長交流プログラムの実施
- 3 日露交流プログラムの実施
- 4 多言語・多文化交流プログラム「パフォーマンス合宿」の実施
- 5 ネットワークの構築と情報収集

### エ. 広報事業

- 1 TJF の事業の広報
- 2 ネットワークの構築と情報収集

事業名	実施時期	実施場所	参加人数	事業内容	関係機関／団体
<b>公1 国内外の児童及び青少年を対象とした外国語教育多様な文化についての理解を促進するとともに、教育及び文化の交流を推進する事業</b> 106,788,822円（内、公益目的事業共通費用 68,494,798円 ※）					
<b>ア. 国内外の児童・青少年並びに教育関係者向けの研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウム事業 6,138,657円</b>					
1 「外国語学習のめやす活用」促進をめざしたワークショップ  予算額:837,167円 実績額:1,095,135円 予算残額:△257,968円  増加理由:期中でウラジオストックでのワークショップを実施することにしたため。	① 8月2日	中国・大連	28名	2019年度は当初計画していた日本国内の「めやす」活用促進活動は「めやす」マスター有志を中心に組み込まれた為、TJFは海外でのワークショップの実現に注力した。  ①ワークショップ in 大連 中国大陸では初の「めやす」ワークショップとなった。TJFは「めやす」マスターなど4名の専門家を日本から派遣し、「めやす」の基本コンセプトについてのレクチャー、「めやす」実践例紹介を行った。参加者は実際に逆向きデザインに則った学習プロジェクトのプラン作成を体験し、ポスター発表を行った。  ◇講師:山崎直樹氏(関西大学教授)、植村麻紀子氏(神田外語大学准教授)、阪上彩子氏(関西学院大学講師)、田原憲和氏(立命館大学准教授)	①主催:大連理工大学 共催:Let's めやす
	② 2020年1月26日	ロシア・ウラジオストック		②ワークショップ in ウラジオストック 日露交流プログラムの一環として行った「極東地域日本語教師研修会」の一部として実施した。(詳細は日露交流プログラム参照)	
	③ 5月～2020年3月			③「めやす」研究本の寄贈 「めやす」とほかの言語教育理論、言語教育スタンダードとの比較研究のほか、様々な言語、学習段階、学習現場で実践した成果と課題が集約されている『他者とつながる外国語学習をめざして「外国語学習のめやす」の導入と活用』(三修社)50冊をTJF事業への協力者、メルマガの読者に寄贈した。	
	④ 通年			④「めやすweb」の更新 「めやす」に関連した研究本、研究会、ワークショップなどの情報をTopicsに掲載して広報したほか、「めやす」を取り入れた学習プロジェクトの実践報告を掲載し共有した。実践報告は「めやす」マスターによるもの5本と「めやす」マスターの阪上彩子氏を中心とする「Let'sめやす」グループが、1年間オンラインで「めやす」での教え方、プロジェクトワークについていろいろな語学の教員と共同設計し実践するというプロジェクトの成果物として、「めやす共同プランニング」のプロジェクトメンバーによるもの5本の計10本。共同プランニングでは「めやす」マスターの指導のもと、ドイツ語、スペイン語、中国語、日本語教員がプロジェクトを行った。	

2	<p>社会変化に対応し学びをデザインする研修の実施(小中高校教員向け)</p> <p>予算額:3,350,870円 実績額:674,801円 予算残額:2,676,069円</p> <p>減少理由:延べ6回を予定していた研修のうち、実施が3回となったこと、またそのうち2回がオンラインとなったため会場費や講師の交通費などがかからなかったため。</p>	① 1) 8月19日	オンライン	9名	<p>1)実践フォローアップ</p> <p>昨年度の課題であった実践途中のフォローアップについては、8月にテレビ会議で実践の途中経過や成果・課題を少人数で共有する場を設けた。石川、大阪、岐阜、広島、東京から参加した小中高の教員と講師が意見交換を行った。その他、本ワークショップで用いている探究デザインの手法を小中高校の教員が各校で実践し、成果と課題を書籍として刊行するプロジェクト(講師が主催)に協力した。2020年中に発行予定の書籍の内容を、本事業の検証と今後の展開の参考としたい。</p>	<p>共催:探究スキル研究プロジェクト</p> <p>助成:JSPS科研費19K03009</p>
		2) 2020年3月15日	オンライン	32名	<p>2) 探究する学びを分析・デザインするワークショップ</p> <p>探究的な学びを分析し単元を設計するワークショップは、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、対面からテレビ会議に切り替えて実施した。前半のセッションでは、実践経験者7名が、教科学習との両立や生徒が追求したくなる問いの工夫など、授業実践を通して得た知見を共有。後半のワークショップでは、各参加者が学習活動カードなどを使って探究的な学びの単元設計に取り組んだ。今後オンラインでのワークショップが増えることも見据えて、参加者の相互触発の場をどのように有効につくるかさらに検討したい。</p> <p>◇ 講師:稲垣 忠・東北学院大学教授</p> <p>◇ アドバイザー:稲原 教子・元アメリカン・スクール・イン・ジャパン教諭</p>	
		② 未実施			<p>②主体的・協働的な学びの評価についてのレクチャー・ワークショップ</p> <p>関係機関とのスケジュール調整ができなかったため未実施。</p>	
		③ 11月10日	東京	36名	<p>③ 探究的・主体的な学びを体験するプログラム</p> <p>知識注入型の教育から探究やアクティブ・ラーニングへの転換に当事者として取り組む教員自身が、多様な分野に関わる人物に出会い、探究的・主体的・対話的な学びを体験し、授業にいかすことを目的とする事業。</p> <p>本年度は、鹿児島県南さつま市のファブラボ(市民工房)を拠点に環境問題の解決に取り組む小崎悠太氏を講師に迎え、半日ワークショップ「教育しか残せない時代に—知識と実体験を融合する鹿児島「サバイバル理科」の取り組み」を実施した。まず、地球環境が限界を迎えている現状について、身体を使ったワークや銅鉱石の採掘の事例などをもとに理解を深めた。その後、地球資源が使い尽くされるなかで次世代に引き渡せるものは「考える方法」であるという考えから小崎氏が高校の「サバイバル理解」の授業で行なっている活動を体験。木の棒と板を使った火起こしのワークでは、どんな条件がそろえば火がおこるのか観察・思考しながらトライ＆エラーを繰り返すことで、教条ではなく自己教育や遊びを通してものごとの構造や原理原則を考え、理解し、技術を身につける学びのあり方を体験した。</p> <p>◇ 講師:小崎悠太・一般社団法人その辺のもので生きる代表理事</p>	

3	<p>「学校のソトでうでだめし」プロジェクトの実施(中高生向け)</p> <p>予算額:2,871,130円 実績額:559,862円 予算残額:2,311,268円</p> <p>減少理由:東京以外の2地域を含むワークショップを3回予定していたが東京での1回実施となったため。</p>	11月9日	東京	15名	<p>「しょうがない」を乗り越えろ！ 構造を理解し解決を配置するシステム思考実践—ゴミ拾いで稼ぐには</p> <p>本プログラムを2年間実施し見えてきた課題は、自己理解や身近な他者との関わり方の模索だけでなく、社会や世界の課題への関心やアクションにつながるプログラムを、中高生の実感から乖離せずにどう実現するかであった。</p> <p>そこで、北米先住民の技術から3Dプリンター、インターネットで世界の人たちと知恵を交換しながら環境問題を解決し生態系をよくする仕組みを開発・提案する小崎悠太氏に講師を依頼した。関東甲信越から集まった中高生たちは、まず、問題の背景にある構造を解明し、構造を変えることで根本的な解決を図るシステム思考を、身体を使ったワークやルーブ図の作成を通して体験。その上で、プラスチックごみを自作の機械で破碎、射出成形し、環境への負荷が少なく社会や個人に役立ち、収入も得られるものに創りかえるprecious plasticの取り組みについて話を聞いた。ペットボトルのふたを刻み、アイロンで溶かしてオリジナルのアクセサリーづくりにも挑戦した。</p> <p>◇ 講師:小崎悠太・一般社団法人その辺のもので生きる代表理事</p>	
4	<p>「りんごをかじろう」講座の実施</p> <p>予算額:2,182,463円 実績額:1,343,788円 予算残額:838,675円</p> <p>減少理由:②の実施に複数の機関の財政的協力が得られたこと、③のゲーム開発の会合実施が予定より少なかったため。</p>	①通年	東京	25人	<p>①2010年から実施している「中高生のための韓国語講座」を駐日韓国大使館 韓国文化院および中日韓国文化院世宗学堂と共催した。</p> <p>◇ 講師:鄭賢熙(駐日韓国文化院 世宗学堂講師)</p>	①共催:駐日韓国大使館 韓国文化院、駐日韓国文化院 世宗学堂
		② 9月30日 10月3日 2020年1月17日	足立西 王子総合 座間総合	188人 231人 279人	<p>②東京都立足立西高等学校、東京都立王子総合高校、神奈川県立座間総合高等学校で外国語(中、韓、西、独、仏、露* *座間総合高校のみロシア語を含む6言語)学習のきっかけづくりを行った。内容は卓球やダンス、クイズ、ボードゲームなどで、活動を通じて外国語に触れる機会を提供した。</p> <p>◇講師</p> <p>■東京都立足立西高等学校 田村由琴(新座卓球クラブ)、ソ・ミョンファン(東京韓国教育院)、ビクトル・ウガルテ(インスティテウト・セルバンテス東京)、バラントン・ギュー(アンスティチュ・フランセ東京)、クリスティアン・シュテーター(ゲーテ・インスティテウト東京)</p> <p>■東京都立王子総合高等学校 張鉦若(早稲田大学大学院)、イム・ジョンウク(ダンサー)、ダビッド・カリオン(インスティテウト・セルバンテス東京)、バラントン・ギュー(アンスティチュ・フランセ東京)、クリスティアン・シュテーター(ゲーテ・インスティテウト東京)</p>	②協力:日中学院、東京韓国教育院、ゲーテ・インスティテウト東京、アンスティチュ・フランセ東京、インスティテウト・セルバンテス東京

				<p>■神奈川県立座間総合高等学校</p> <p>包晗(カメラマン)、イム・ジョンウク(ダンサー)、アイコ・タカハシ・チンチラ(通翻訳家)、シリル・コピーニ(落語パフォーマー)、インスティット・セルバンテス東京、丸山智子(ゲーテ・インスティット東京)、クリスティーナ・ヨシハラ(モデル)、エルネスト・アスタフィエフ(英語教師)</p>	
		③通年		<p>③日本語話者が、海外から来日する人と隣語としての日本語で交流することを促すツールとして、オノマトペのカードゲームの開発を進めた。2018年度に制作した試作版でテストを重ね改善した。</p> <p>◇開発委員:石澤徹(東京外国語大学)、伊東克洋(東京外国語大学)、長田年伸(デザイナー)</p>	
5	<p>学生によるインタビュー活動プロジェクト「ときめき取材記」の実施</p> <p>予算額:1,211,930円 実績額:1,133,245円 予算残額:78,685円</p>	①通年		<p>7校 ①大学などで「日本事情」「日本語」を担当する教師の協力を得て、留学生を含む学生が興味のあるテーマに関係する人にインタビューし、まとめた記事をウェブで発信するプロジェクト実施した。本年度参加の7校のうち2校は新規参加となった。</p> <p>◇参加校:愛知、大阪、神奈川、群馬、東京、ニュージーランド、ロシア</p>	
		②8月24日、25日	神奈川	<p>10名 ②実践ワークショップの実施</p> <p>深いインタビューをし、その人の魅力を伝える記事にすることにこのプロジェクトの肝があることから、1日目は聞き書きの名手・塩野米松氏とプロカメラマン・中西佑介氏を講師に迎え、「聞き書きとは何か、いい質問とは」「インタビュー記事に必要な写真とは」をテーマに、実際にときめき取材記ウェブサイトに掲載されている記事を題材に話をしてもらった。2日目は4名による実践発表を行い、具体的な手順、成果、課題をシェアした。2日間を通じて、いいインタビューや写真について考察を深め、実践希望者は自分の授業に取り入れる際の具体的なイメージをふくらませた。</p> <p>◇講師:塩野米松(作家)、中西佑介(写真家)</p>	
6	<p>ネットワークの構築と情報収集</p> <p>予算額:2,701,470円 実績額:1,331,826円 予算残額:1,369,644円</p> <p>減少理由:勉強会の実施回数および学会・研究会への参加が少なかったため。</p>	通年		<p>アの事業に関連する国内の研究会や会合等に参加し、ネットワークを広げるとともに、情報収集とTJF事業の広報に努めた。</p> <p>また、スタッフが学ぶ機会として、複数回の勉強会を開催した。</p>	

イ. ガイドライン・教材・視聴覚資料・授業案の開発や提供事業 6,523,793円

1	<p>日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにっぽん」の運営</p> <p>予算額:2,657,661円 実績額:1,427,687円 予算残額:1,229,974円</p> <p>減少理由:新規記事の取材をしなかったため。ときめき取材記を4言語に翻訳した記事の掲載がなかったため。</p>	通年			<p>本年度は「くりっくにっぽん」のウェブサイトのコンテンツを更新することよりもメルマガ「Click Nippon News」(以下CNN)の内容の充実に力点を置いた。また、「ときめき取材記」の記事を2本程度選び、翻訳後くりっくにっぽんに掲載することを計画していたが、体制が整えられず実現できなかった。</p> <p>おもに英語圏の日本語教師向けに月に1回配信しているメルマガCNNでは、「くりっくにっぽん」と「ときめき取材記」の記事を活用した学習活動案を紹介している。創刊から3年が経ったことから、登録者約830人を対象に、CNNの内容を充実させメルマガのどんなところにメリットを感じているのか、どう役立てているのかなどについてウェブ上でアンケートを実施し、英語圏を中心に105件の回答があった。「日本で話題になっていることを知った」「文化理解の新たな視点を得た」「授業内容が深まった」の回答が多くあがり、CNNがめざしていることと合致していることがわかった。</p>	
2	<p>中国への図書・教材・資料の提供</p> <p>予算額:4,127,762円 実績額:4,950,776円 予算残額:△823,014円</p> <p>増加理由:①の東京研修のフォローアップ研修を実施したため。</p>	①-1 7月25日～30日	東京	8名	<p>①2019年度は、5校に設けた好朋友日本文化体験の場が、それぞれの学校の状況にあわせて活用できるようになることをめざして、以下を実施した。</p> <p>①-1 中国日本語教師東京研修 文化を見る視点をいかに獲得していくかについて、理論や誰かほかの人の実践を聞くことに加えて、自身で体験してもらうことが重要だと考え、「文化の捉え方」を活動を通して学ぶ教師研修を、好朋友日本文化体験の場がある学校の先生と、その周辺の学校の先生を東京に招聘し実施した。</p>	①-1～3助成:三菱UFJ国際財団
		①-2 10月10日～13日	上海	10名	<p>①-2 東京研修のフォローアップ研修 教師研修ではそれぞれの学校にあわせた具体的な活動案をつくる時間をとることができなかったため、同じ参加者、同じ講師陣で、10月に上海で2日間の研修を行い、研修を受けてから学校現場に戻って感じたことや悩みを共有し解決策を模索しながら、今後の学校での活動づくりにつなげることをめざした。</p>	



		①-3 11月～12月	大連 ハルビン 上海 中山	40名 20名 5名 10名	<p>①-3 巡回訪問</p> <p>生徒の日本語レベル、人数、日本語学習の位置づけなどは、学校によってさまざまである。各校の状況を把握したうえで、体験の場と体験の場に寄贈されている玩具や本などの活用方法を具体的に検討することを目的として、11月から12月にかけて、講師と共に体験の場のある5つの学校を中心に訪問した。</p> <p>●アイデア集制作・配付</p> <p>今後、それぞれの学校でこれまでの寄贈品が活用されることをめざして、体験の場にあるものの使い方の詳しい説明、講師や先生方が考えた使い方のアイデアなどを1冊の冊子にまとめ、5校のすべての日本語教師に配付した。</p> <p>◇講師:稲原教子 元アメリカンスクールインジャパン教諭(①-1)、武田育恵 華南師範大学南沙中学日本語教師(①-1、2)、伊藤瞳 中山市外国語学校日本語教師(①-1)</p>	
		② 通年			<p>②中国の大学への図書寄贈</p> <p>講談社より提供していただいた図書を、(公財)日本科学協会を通じて、日本語科があり日本語学習者数の多い20大学に計11,025冊寄贈した。</p>	
3	<p>ネットワークの構築と情報収集</p> <p>予算:1,081,540円 実績:145,330円 予算残額:936,210円</p> <p>減少理由:予定していた海外の研究会への参加をとりやめたため。</p>				<p>イの事業に関連する学会、セミナーや会合等に参加し、TJF事業の広報に努めるとともに、関連する資料や情報の収集を行った。</p>	

ウ. 互いのことばを学ぶ国内外の児童及び青少年並びに教育関係者の交流事業 17,471,579円

1	<p>日韓・中高生の交流プログラム「ソウルでダンス・ダンス・ダンス」</p> <p>予算額:5,423,387円 実績額:5,272,626円 予算残額:150,761</p>	8月14-19日	ソウル	38名	<p>日本で韓国語を学ぶ中高校生と韓国で日本語を学ぶ中高校生のダンスをテーマとする合宿型交流プログラムの第8回を実施した。選考に通った日韓の中高校生(日本側20名、韓国側18名)が参加した。本年度は、発表会場に本格的なステージを用意したのに加え、過去のプログラム参加者4名をスタッフに加えて交流の機会を設けることで、参加者目線の運営と参加者のキャリアデザインのきっかけも提供できた。発表は、各チームが7分以内に、それぞれ考えた方法・構成でダンスを披露し、来場した約70名を超えるゲストが6チームの中から、最も魅力を感じたチームに投票し優勝チームを決めた。</p>	<p>企画・共催:秀林文化財団 共同実施:秀林外語専門学校、韓国日本語教育研究会 助成:日韓文化交流基金 後援:国際交流基金ソウル日本文化センター 輸送協力:ANA</p>
2	<p>日韓校長交流プログラム</p> <p>.....</p>	①11月21日 ～24日	東京	9名	<p>日韓の高校管理職等をそれぞれ3泊4日で派遣・招聘するプログラムの5回目を実施した。</p> <p>①招聘事業 韓国の高校の3校から管理職等各校3名を招聘した。日本滞在中は、韓国語を学ぶ高校生や、高校教師、日本の大学関係者及び韓国からの留学生と交流。滞在3日目には「日韓校長及び教師交流会」で日本の高校5校の管理職及び教員9名と学校間交流をテーマに交流した。</p>	<p>共催:韓国国際交流財団、東京韓国教育院、神奈川県韓国総合教育院、国際交流基金ソウル日本文化センター 助成:李熙健韓日交流財団 協力:埼玉韓国教育院、千葉韓国教育院 輸送協力:ANA</p>
		②12月26日 ～29日	ソウル	10名	<p>②派遣事業 東京で実施した「日韓校長及び教師交流会」の参加校に、新たに1校を加えた計6校10名を韓国に派遣した。ソウル滞在中は、日本語を学ぶ高校生、韓国の大学関係者及び留学中の日本の学生や韓国の中高等教育機関で日本語を教える教員と交流した。そして、11月に交流した韓国の高校校長他教師を含む6校17名と今後の学校間交流の可能性などをテーマに交流し、互いのことばを学ぶ意義を再確認した。</p>	

				<p>なお、2018年度プログラム参加者(2校3名/校長1名、教員2名)を対象に、学校間交流の具体化等を目的とした韓国渡航費の一部を補助するフォローアッププログラムを併せて実施した。</p> <p>■東京都立足立西高等学校(2018年度プログラム参加、2019年度フォローアッププログラム参加) 2019年7月に桂南高等学校(韓国・京畿道)から教員、生徒を受け入れ、2019年12月に足立西高等学校校長と教員2名が訪問</p> <p>■興譲館高等学校(2018年度プログラム参加、2019年度フォローアッププログラム参加) 2020年12月に興譲館高校の教員1名が大真電子情報高校(韓国・釜山)を訪問。2020年1月に大真電子情報高等学校教員8名の訪問受入、教員交流を実施。</p> <p>その他、計画としてはあった(例:都立東久留米総合高校/3/26-28教員6名による韓国視察、3/27金玉女子高校*訪問し、8月の生徒交流実施に向けて検討・打合せの予定だった。現状については現在確認中))が、具体的な実施にはいたっておらず、また、実現も不透明な状況。</p>	
3	<p>日露交流プログラム</p> <p>予算額:8,199,661円 実績額:8,732,956円 予算残額:△533,295円</p> <p>増加理由:招聘人数を増やしたため。</p>	<p>①11月1日～8日</p> <p>※11月3日</p>	<p>東京、石川、富山</p> <p>※日露教育交流会(東京)</p>	<p>17名 ①ロシア初中等校長等招聘</p> <p>50名 サントペテルブルク、モスクワ、ノボシビルスクにおける日本語教育実施の拠点校で、2018年度の日露交流学習プロジェクト参加校を中心に、校長または副校長と同伴日本語教師15名、「図書館プロジェクト」関係者2名を招聘した。日露教育交流会では、日露の教育交流への取り組みを中心に発表・意見交換を行い、約50名の日本の教育関係者と交流を図った。期間中、東京都内と金沢市内見学、日本文化理解のためのミニ豊づくりを体験したほか、富山県のロシア語教育実施校2校を訪問し、ロシア語の授業参観、茶道や剣道などの部活を見学し、日本の高校生と交流した。</p> <p>日露教育交流会の開催に合わせ、サントペテルブルクの学校と山形県酒田市の学校との友好校提携式が行われた。また、本交流会がきっかけとなり日露の学校間での友好校提携に向けての協議が進められるケースも散見された。2018年度の日露交流学習プロジェクトに参加した日露教師たちの再会、今後の交流の継続などについても確認し合う好機となった。</p>	<p>助成:一般社団法人尚友倶楽部</p>

		②4月1日～ 2020年1月	サントペテ ルブルク	寄贈式50 名 紙芝居8名 翻訳ワー ク ショップ11 名	②ロシアにおける日本文化理解促進「図書館プロジェクト」  サントペテルブルク市マヤコフスキー記念中央公共図書館に対し、日本語書籍388点を寄贈した。同図書館は2017年に東洋文化センターを設立、日本を含む東洋の書籍が所蔵されており、無料の日本語倶楽部、源氏物語を読む日本文学ワークショップなどを開催している。今後、特に若年層の活発な日本語学習・日本文化理解の場となるよう、日本語教材、児童書、日本の衣食住を紹介する書籍や写真集、日本の主たる文学賞受賞作品(最近十年のものを中心に)、日本のノーベル賞受賞作家の作品集などを厳選し2020年1月29日に寄贈式を行った。  同日、図書館主催、TJF共催による日本文化理解セミナー(紙芝居と翻訳ワークショップを含む)を実施した。  ◇講師:リャーボヴァ・エカテリーナ氏(翻訳家、本プロジェクトコーディネーター)※11月にはリャーボヴァ氏同伴で東洋文化センター長のトチールキナ・イリーナ氏を日本に招聘した。	助成:一般社団法人尚友倶楽部
4	多言語・多文化交流プログラム「パフォーマンス合宿」  予算額:3,790,568円 実績額:1,301,841円 予算残額:2,488,727円  減少理由:新型コロナウイルス感染拡大を受け実施を中止したため。	2020年3月28 ～31日(中 止)*	東京	参加決定 30名	*本事業は新型コロナウイルス感染拡大に伴う2月28日の一斉休校要請を受け中止とした。  予定では、英国より2名の演劇専門家をファシリテーターとして招聘し、第1回、第2回の合宿参加経験者計6名に学生サポーターとして参画してもらうこととしていた。なお、11月には英国人ファシリテーター1名と学生サポーター等実施関係者のプレワークショップを実施した。参加が決定していた30名の高校生に対しては、2020年度事業への振替参加も視野に入れ事業の継続を計画している。2020年3月末時点で振替参加希望は8名。	
5	ネットワークの構築と情報収集  予算額:595,000円 実績額:250,369円 予算残額:344,631円  減少理由:セミナーへの参加が少なかったため。				ウの事業に関連する研究会、セミナーや会合等に参加し、TJF事業の広報に努めるとともに、関連する資料や情報の収集を行った。	

エ. 広報事業 8,159,995円

1	<p>TJFの事業の広報</p> <p>予算額:7,073,658円 実績額:8,120,057円 予算残額:△1,046,399円</p> <p>増加理由:多言語ウェブサイト にロシア語を加えるなど、改訂の費用が予定より多くなったため。</p>	通年	TJFサイト、メールマガジンほか		<p>①事業報告書およびパンフレットの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業報告書『CoReCa』の発行</li> </ul> <p>本年度の工夫として、報告書とウェブサイトの連携の試みとして、誌面で取り上げた事業の各ページにQRコードを配し、QRコードを読み込むとウェブサイトの各事業ページに移動する仕組みを取り入れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度に作成した4言語(英、中、韓、露)のパンフレットの内容を改訂した。</li> </ul> <p>[実績]『CoReCa』2020年3月発行(A4変型、5,000部)</p> <p>パンフレット(英韓中露)2020年3月発行(A5判、各100部)</p> <p>②デジタル媒体を使った広報</p> <p>スマートフォンでのウェブサイト閲覧数が多くなってきていることから、スマートフォンに対応したウェブサイトにリニューアルした。内容的には事業の全貌がわからないなどの課題があったことから、全事業を「学びを深める」「きっかけをつくる」「つなげる」「発信する」に分け、それぞれの事業の始まりから現在までがわかるようにした。『CoReCa』の特集だけを取り出したコーナー、事業の報告や募集などのコーナーなどを新規につくるほか、これまでのウェブコンテンツ、出版物も整理して引き続き閲覧できるようにした。これまであった英中韓の3言語版もリニューアルするとともにロシア語版は新規オープンした。メールマガジン「わやわや」では募集と報告を中心とした内容で月に1回配信、Facebookでも引き続き事業を広く発信した。</p>	
2	<p>ネットワークの構築と情報収集</p> <p>予算額:408,000円 実績額:39,938円 予算残額:368,062円</p> <p>減少理由:セミナーへの参加が予定より少なかったため。予定していた広報出版物に対するモニタリングを実施しなかったため。</p>	通年			<p>エの事業に関する研究会やセミナーに参加し、TJF事業の広報に参考になる資料や情報の収集を行った。</p>	

※公益目的事業に係る費用(給料手当、福利厚生費、消耗品費、賃借料など)